

「庭でカモシカに遭遇(4)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka



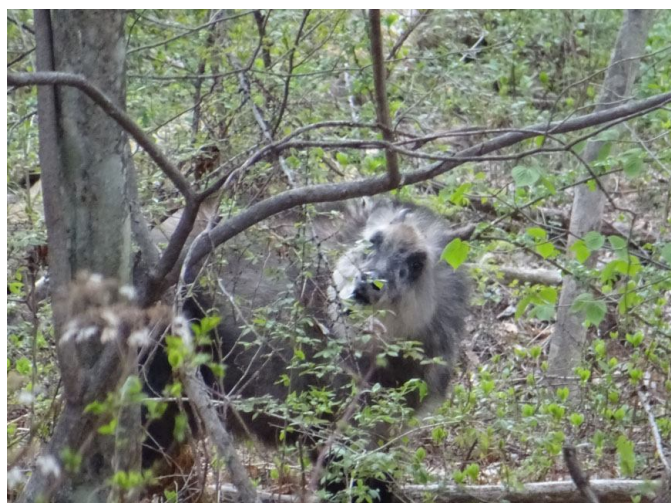
マーキングに使う匂い成分は、カモシカの目の下に
一対ある「眼下腺」という器官から分泌される。カモ
シカがまるで目が痒いように、幹や枝に顔をこするの
は、その為だ。この明瞭な眼下腺の存在が、カモシカ
を見分ける特徴にもなっている。



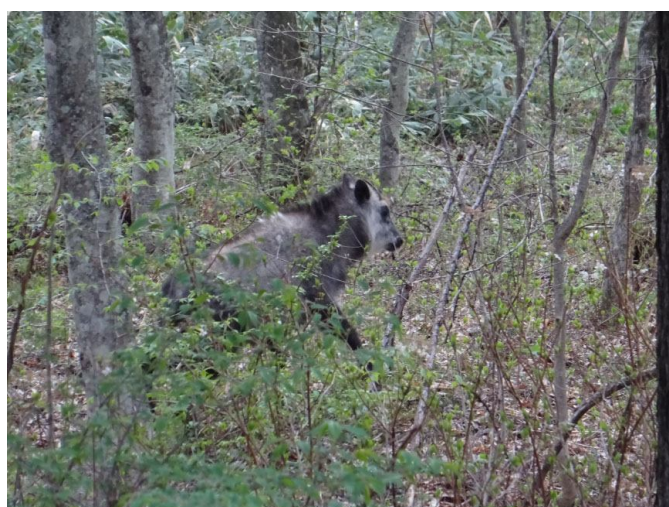
私の山荘付近の航空写真である。赤屋根の山荘の周
囲は、カラマツ、シカラバ、ミズナラなどの木々に囲
まれているが、北側には日当たりの良い草地(裏庭)
がある。カモシカは白線の経路で移動した。カモシカ
にとっては、結構居心地の良い場所なのだろう。



カモシカは何度もマーキングを繰り返し、時折振り
返って、私と目を合わせてフリーズしていた。



林に入ったカモシカは、高木の幹や灌木の枝に、し
きりに顔をこすりつける行動を見せていた。これは、
自分の匂いを地上物に着けて、縄張りを示す「マーキ
ング」という行動である。カモシカ一頭の縄張りはお
よそ10~50haと広い。マーキング行動が見られると
いうことは、私の庭も縄張りの一部なのだろう。



実に滞在30分、カモシカはゆっくりと林の奥に帰
っていった。野生動物をじっくりと観察できた。